熊本の茶

第2回 九州茶共進会から

温暖多雨の適地

本県の茶業は森林伐採跡地に自生の茶がそう生する等の立地条件に恵まれたため、この利用による製茶の歴史は古い。この製法も種々検討研究されはしたものの、好条件を高度に活用するに至らず自給を主とした製茶に止まったため、過去の生産様式が根強く残り、全国的消費傾向に対応した茶種の生産におくれを来し、輸移出面はもとより昭和三十二年に至りやっと県内自給の域に達した。

しかるに近年この停滞を打破し、輸移出の隆盛に伴う茶業振興を図るため、生産様式を改善し企業化された茶業農家の誕生による茶種別の特産地形成と、共販促進の両面からの推進によって生産も逐次増加し三十九年度に於ては作付面積二、五〇〇紒になり、生産量も二、〇〇〇トンを突破し年間四〇〇トン余の県外出荷をみるようになった。

勿論本邦茶業を左右する静岡県における生産の絶対性はゆるぎないものではあるが、商工業等の発展が著しい現況では、必然的に漸減の傾向を来たすものと考えられるので、将来における生産の主体性は温暖多雨で茶業に好適する気象条件を有する九州地方に移行することが予測される。この生産の推移を急速ならしむため九州としての広域な茶業圏の確立とその主体性を本県にもつことが期待されつつあることからここに第二回九州茶共進会を本県で実施する運びとなった。

追随をゆるさぬ玉緑茶

本県は地域的にも九州の中心に位置し生産量とともに本県茶業が九州の中軸となって発展するためにも誠に時宜を得たものであり、本共進会の開催を期として益々本県茶業関係者の大同団結の基礎となるものと思考される。この様な目的及び経過から、共進会の行事を通じての本県茶業を省みることも無意義ではないと思い、行事別に若干の考察をすることにした。共進会褒賞授与式の前日に産地視察検討会を実施された処、九州各地の生産者二〇〇名の参加を見たので、八代郡泉村の村上氏経営の茶園を中心とした茶園視察班と、下益城郡城南町の武田製茶工場の茶園視察班とに分かれて、現地で充分に研究検討をお願いし、この合同検討会を開いた。その結果、本県茶業に対する貴重な意見が出されたが、要約としては泉村茶業の有望な将来性が確認されると共に、反当り十五万円の粗収入をあげている城南町の品種茶園に対しいずれも称賛の言葉があった。

このことは本県の茶業が山間地、平且地を問わずいづれも茶業適地としての広さがあることを認識され、その発展性に多大のせん望的な感を深められたことの表われと思われる。

また本会の主要行事としての茶の品質の向上を競う共進会では、玉露、紅茶、煎茶、蒸製玉緑茶、かまいり茶が、それぞれ地域産業として多数出品されたことは、その種類の豊かなことと九州を経済圏としての茶業振興を強調するゆえんとして、今後の経済圏樹立上極めて有意義であったと思料される。

本県からは煎茶、蒸製玉緑茶、かまいり茶の夫々優秀なものが出品されたが、中でも蒸製玉緑茶とかまいり茶に於ては、特に優秀な成績をおさめ、水俣市の北本氏と御船町の黒田氏に栄ある農林大臣賞の栄冠が輝いたことは、この種類の茶では他県の追随を許さないものとして確信を新たにしたところである。

みのがせない技術開発

従来かまいり茶は、佐賀の嬉野、宮崎の三カ所と本県が優劣を競っていたが、最近やや本県が不振で立遅れをみた感があったものの、今回の入賞により明るい光明を得たことは開催県としての努力の賜として、その評価は大なるものである。

また試験研究機関の釜炒茶機械の連続化に対する技術開発による貢献も、また、見逃すことはできないかくれた功績というべきである。且つ本県の蒸製玉緑茶は従来鹿北茶として全国でもその優秀さを誇っていたものであるが、今回はからずも僅かの差で破れ、しかも伸茶の特産地として知られた水俣市から最優秀賞を出したことはその栄光をたたえて惜みない。

県別荒茶入賞者一覧表

	玉露			伸茶			蒸製玉緑茶			釜炒製玉緑茶			紅茶		
	1等	2等	3等	1等	2等	3等	1等	2等	3等	1等	2等	3等	1等	2等	3等
福岡県	1	4	5		1	2									
佐賀県									1		2	1			
長崎県												2			
大分県													1		
宮崎県				2	2	2		1	1	1	1	7	1		
鹿児島県						3								3	7
熊本県			1			1	3	4	11	2	5	7			

自給県から移出県へ

今後の方向として生産拡大化を図るためには、全国的なマーケットに対する茶種の生産が必要である。その意味では国内の嗜好性は、伸茶が大部分である現況からして、伸茶の生産拡大が絶対必要となることであるのを留意すべきことである。今後更に伸茶に対する生産製造技術の改善に主力を注ぎ、主産地形成を行ない、均質量産をほこる特産地の拡大を計るべきである。

このほか玉露が本県より一点出品されたが先進地と競い、よい成績をおさめたことは茶の嗜好が上級茶に移行している現況と併せ、本県茶業の上級産地化形成上に自信を得たもので、今後の地域茶業の所得向上に寄与することと思われる。

以上本県茶業の実状と、共進会開催に伴う本県茶の関係をのべたが、自給県から移出県へ脱皮した日浅い本県が、今後なお移出量を拡大し益々肥後茶の名声を天下に轟ろかせるためにも、この成果は極めて高かったので本共進会の成果を今後ともに期待する。

（果樹特産課）

国を支える若い力を

昭和四〇年度自衛官(二士)募集の第一次、第二次募集は別表のような結果で終了しました。

しかし、まだ自衛隊の生活・待遇・将来性などについて、よく知られていないところもあるようです。折角、受験して合格しても、入隊しない人も多数あるようです。

市町村当局をはじめ、父兄会、協力会のご協力で、受験・入隊あるいは激励など、一層の推進が望まれています。

県では、次のように自衛官募集事務要領を作成し、募集事務を強力におし進めることにしています。

一、零市町村をなくす運動

毎次の募集が終了すればその結果を市町村別に集計し、一人の該当者もなかった市町村には、県事務所を通じて働きかける。

二、巡回広報

県、県事務所、地方連絡部と協力して、募集状況など説明する。

三、担当者会議

郡単位に担当者会議を開き、自衛隊の認識、募集事務の効果をあげるため検討する。

■ 昭和40年度自衛官（2士）募集目標

区分 / 地域別	受験目標 40年度	受験目標 第1次	受験目標 第2次	入隊目標 40年度	入隊目標 第1次 (A)	入隊目標 第2次 (B)	受験者数 第1次	受験者数 第2次	入隊者数 第1次 (a)	入隊者数 第2次 (b)	比率 第1次 (A)/(a)	比率 第2次 (B)/(b)
熊飽	418	121	130	190	55	59	132	145	61	52	111%	88%
宇城	146	42	43	65	19	20	38	42	14	15	74	75
玉名	176	51	49	80	23	22	64	37	29	16	126	73
鹿本	90	26	24	43	12	11	20	27	8	15	67	136
菊池	99	29	24	45	13	12	36	47	17	29	131	242
阿蘇	99	29	20	45	13	9	42	27	22	11	161	122
上益城	84	24	23	38	11	10	33	35	12	19	118	190
八代	165	48	38	75	22	18	41	41	20	15	91	83
芦北	77	22	17	35	10	7	12	19	8	9	80	129
球磨	125	37	35	60	17	16	30	38	21	24	123	150
天草	110	31	30	50	14	14	28	25	16	11	114	79
合計	1,589	460	436	726	209	198	493	487	231	217	110	110